

背骨変形治療を解説

多い「低侵襲手術」

製鉄室蘭病院
健康セミナー

低侵襲化や合併症低減につながっている現状なども解説。脊椎脊髄外科分野での先進医療に、市民らも熱心に耳を傾けていた。

(松岡秀宜)

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第36回市民公開健康セミナー」が10日、室蘭市知利別町の同病



「背骨の変形と治療」について解説する
小谷副院長・整形外科長

院がん診療センターで開かれ、市民らが身体への負担が少ない「低侵襲の手術」が、背骨の変形に関わる多

くの病気の治療に用いられている実情などを学んだ。

市民ら約70人が聞き入る中、小谷善久副院長・整形外科長が「背骨の変形とその治療」について解説。頸椎後弯症、脊柱側弯症、腰椎変性すべり症などの症状や治療法などに触れ、「これらの病気に関わる」手術は非常に細かく複雑なものが多く、神経や血管の安全性を保つことも必要」と強調した。

その上で、高精度ナビゲーション手術や、同病院が2012年(平成24年)から導入している「腰椎前外側椎体間固定術」によって、